

障害者の介護保険移行問題

サービス継続院勝ち取った

障害者が65歳になると、それまで使っていた障害福祉サービスから介護保険サービスへの切り替えを自治体から要請され、全国で問題化しています。仙台市では、粘り強く障害福祉サービスの利用継続を求めた男性が認められました。属性は、日本共産党市議団（嵯峨サタ子市議団）の議会での質問などが力になったと語っています。

(鈴井聖子)

仙台市

千葉秀樹さんは仙台市は60歳で65歳となるのを前にした7月、これまで通りの障害福祉サービスを利用を市から認められました。安堵（あんぐ）の表情で「お詫びします」。

断固拒否します

3回の訪問確認も使って、日々の難しさを組み立ててあります。2010年に交通事故で左半身にまひがあり、車いすを使っています。事故で生活が一変し、重度の精神疾患も抱えるようになったのです。

たつた1時間の家事援助を受けています。介護保険に切らすされた時間や回数が減らされてしまっています。そうなれば生活が成り立たないなってこ

うつたのです。千葉さん（右）と嵯峨市議二仙台市太白区の表情で「お詫びします」。

共産党市議団の質問が力に



「心のひだに寄り添うのは共産党だけだ」と語る千葉さん（右）と嵯峨市議二仙台市太白区

祉サービスを併用いたた
くなんじむる返事があ
りました。

日本共産党の嵯峨サタ
子市議は、千葉さんが65
歳になつても引き続き障
害福祉サービスを使える
よう役所に同行するなど
厚生労働省はこれを根

祉サービスを併用いたた
くなんじむる返事があ
りました。

障害者が介護保険への
移行を迫られる背景に、
障害者総合支援法7条の
規定「他の法令による給
付等との調整」があります。

祉サービスを併用いたた
くなんじむる返事があ
りました。

立場をじつづつ、自治体には、一律に介護保険サービスを優先させるのでなく、個々の状況に応じた支給決定を求めるという姿勢です。

柔軟な運用強調

嵯峨市議は6月の議会で、「障害者の訴えを受けて止め、介護保険への移行を強いる施策をやめる

よろしく尋ねやめていた
べきだ」と追及。「仙台市は障害者本人の基本的
人権を尊重し、自己決定権を保障する立場でその人らしく暮らせるように柔軟に運用すべきだ」と強調しました。

これに対し市は、介護保険適用などに関する具體的な基準は国から示されていないと指摘。障害者が年齢を重ねても住み慣れた地域で安心して暮らすことに対する心配感を踏まえた「必要な限りの

中です。

千葉さんは「弱者に寄り添い、基本的人権を守られていないと指摘。障害者が年齢を重ねても住み慣れた地域で安心して暮らすことに対する心配感を踏まえた「必要な限りの

こと」が何より大切な運

週4回の訪問入浴と週

障害福祉サービス・障害福

用を国に働きかけると答
弁しました。

「人間としてその人ら
しい暮らしを送るために
はどんなサービスが必要
なのです。サービスに対する
立ちは人権とかがわかるも
の」と嵯峨市議。

福祉サービスが必要と
して、毎月の定期的